

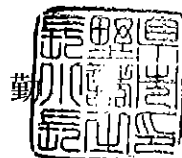


20建 第523号

平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

小諸市長 芹 澤



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答します。

- ・ 今後、急速に進むインフラの老朽化、特に橋梁等は効率的な点検・補修が必要になり、市の一般財源での維持補修は限界があり、国の支援を要望します。
- ・ 坂の町小諸は、大雪になると交通は遮断し、昼夜の温度差のため夜間の路面が凍結し、こまめな塩カル散布が必要になり、除融雪費用は数千万円になる。生活道路の安全確保のため、除融雪に対する国の支援を要望します。
- ・ 市民アンケートの結果、生活道路の維持補修は53.4%の小諸市民が不満を持っているが、市民が地域の道路の草刈や側溝清掃を実施する道ぶしんクリーン事業を推進し、「市民協働」のまちづくりを進めている。行政だけでなく市民協働の道路維持管理が必要。
- ・ 小諸は新幹線の駅がなく、鉄道のネットワークは小海線としなの鉄道であるため、地域間の交流・連携に道路のネットワーク化は重要であり、高規格道路のネットワークの早期整備を要望します。
- ・ 小諸市の高齢化率は平成27年に29.6%、年少人口割合は11.7%になり急激な少子高齢化社会が進展します。お年寄りや子供たちの安全・安心を確保するために、信号機設置等、交通安全事業の充実を要望します。

今後の道路行政についての意見・提案

②－1 地域の現状と抱える課題

様式②

長野県 小諸市

○現状

- ・ 平成7年に小諸ICが開通し来訪客の増加を期待したが、平成9年に新幹線が開通し小諸駅はしなの鉄道になり乗降客が減り、懐古園の観光客が減少し、中心市街地が衰退した。
- ・ 小諸市は人口減少社会に突入し、急激な少子高齢化の進展や産業活力の低下から将来の生産年齢人口の減少が予想される。

○課題

- ・ 街なみ環境整備事業やまちづくり交付金事業で、街なみの景観の保全、道路美装化、懐古園の施設整備を実施したが、中心市街地へ観光客を誘導することが課題。特に、国道18号「諸交差点」と「加増交差点」の改良。
- ・ 自主財源の確保や地域住民の生活基盤の安定のため、積極的な企業誘致による雇用創出が課題。

- ・ 小諸ICから中心市街地へスムーズな観光バス等の安全な通行確保をし、来訪客を中心市街地に誘導し、まちづくり交付金事業による小諸駅周辺の整備とあわせて、中心市街地の活性化を図る。
- ・ 既存工業団地内の道路維持補修と企業誘致に必要な道路整備を行い、企業誘致を実現し、定住人口、就業人口、交流人口の増加を図る。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式④

長野県 小諸市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 安全安心快適な交通を確保する道路整備 ・ 地域活力の向上と危機管理の強化	・ 地方道路交付金事業 市道0114号線(浅間サンライン)舗装修繕 ・ 中部横断自動車道	・ 交通量の多い路線で、効率的な舗装補修の実施により、通行車両の安全が向上し、快適な道路環境が形成された。 ・ 野菜や果物の国内輸送はトラック輸送が大半を占め、物流による輸送時間の短縮による地域産業の高付加価値化の支援。 ・ 産科施設を含め病院へのアクセスが飛躍的に向上し、安心な生活環境が実現する。	・ 交通量が多いため、市で維持管理するには限界。県道として、県が管理するべきである。